

# 海軍の特攻艇「震洋」

震洋は(しんよう)は、第二次世界大戦で日本海軍が開発した自爆攻撃をするためのベニヤづくりの特攻艇（特攻兵器）である。

勝浦にも米軍本土上陸を迎え撃つために、第55震洋隊が鵜原に、第129震洋隊が勝浦に配備された。この他に震洋の特攻基地は尾名、妙子浦、守谷、興津等にあった。また、勝浦特攻基地には海龍（かいりゅう）と蛟竜という潜水艦も配備されたという。

鵜原には神浦中尉を指揮官とし、学徒動員による予備学生などが結集し、毎日特攻訓練を続けた。また、彼が掘ったトンネルや洞窟が、鵜原には今も多く残っている。



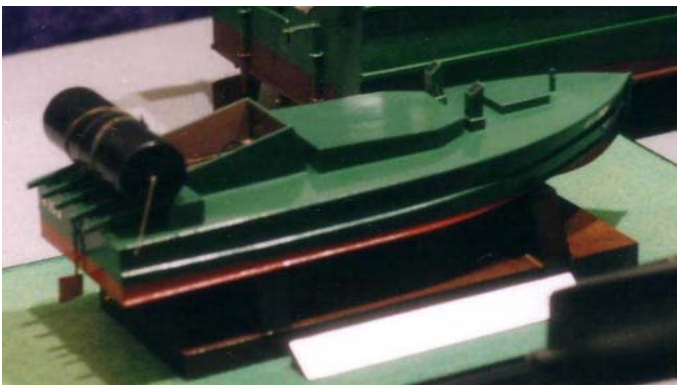
震洋の基地があった勝場(鵜原)漁港



この道路の左側に震洋の基地跡がある



震洋の基地の跡でここに震洋を隠した。トンネルの奥深くには司令室があったという。



震洋の模型で鵜原にあった1型艇と思われる



航走中の1型艇